

令和２年度「いじめ調査（年間）」のまとめ

１ 過去５年間の認知率の推移について・・・実人数による割合

認知率	小学１年	小学２年	小学３年	小学４年	小学５年	小学６年	小学合計	中学１年	中学２年	中学３年	中学合計
平成２８年度	49.2%	40.7%	36.7%	30.7%	20.2%	17.1%	32.0%	10.7%	4.0%	2.0%	5.5%
平成２９年度	58.3%	37.5%	36.4%	31.5%	18.8%	11.9%	31.4%	8.2%	4.0%	1.1%	4.2%
平成３０年度	46.7%	51.6%	41.2%	34.9%	23.4%	16.1%	34.7%	8.6%	7.8%	1.5%	5.8%
令和元年度	46.2%	33.0%	45.8%	33.8%	23.6%	13.1%	31.7%	10.8%	5.0%	4.8%	6.7%
令和２年度	47.0%	28.0%	21.8%	31.9%	15.6%	10.8%	25.2%	6.2%	5.4%	1.7%	4.4%

ア 京丹後市内すべての小中学校において、いじめを認知している。

イ １０００人あたりの認知件数は、京都府において小学校 145.2 件・中学校 49.6 件（平成元年度）に対し、京丹後市は、小学校 252.3 件・中学校 43.9 件（令和２年度）であった。

ウ 年間（合計）の認知率を令和元年度と比較すると、小中学校ともに減少している。また、小学校は、過去５年間で最も低い認知率となっている。

エ 同一学年を経年で比較すると、すべての学年で減少している。

２ 態様について

小学校		中学校	
京丹後市（年間）	京都府（R2・２回目）	京丹後市（年間）	京都府（R2・２回目）
冷やかしやからかい等 (38.9%)	冷やかしやからかい等 (39%)	冷やかしやからかい等 (56%)	冷やかしやからかい等 (53.5%)
軽くぶたれたり蹴られたり、 遊ぶふりをして叩かれる (19.4%)	軽くぶたれたり蹴られたり、 遊ぶふりをして叩かれる (18.5%)	軽くぶたれたり蹴られたり、 遊ぶふりをして叩かれる (8%)	軽くぶたれたり蹴られたり、 遊ぶふりをして叩かれる (14.2%)
仲間はずれ・集団による無視 (12.4%)	仲間はずれ・集団による無視 (12.6%)	仲間はずれ・集団による無視 (8%)	仲間はずれ・集団による無視 (7.8%)
ひどくぶたれたり、けられたり する (10.2%)	嫌なことや恥ずかしいこと、 危険なことをされたり、させ られたりする。 (8.4%)		嫌なことや恥ずかしいこと、 危険なことをされたり、させ られたりする。 (5.9%)
【SNS】 パソコンや携帯電話等での誹 謗中傷や嫌なことをされる (2.2%)	パソコンや携帯電話等での誹 謗中傷や嫌なことをされる (1.6%)	パソコンや携帯電話等での誹 謗中傷や嫌なことをされる (6.8%)	パソコンや携帯電話等での誹 謗中傷や嫌なことをされる (4.2%)

ア 態様は、ほぼ京都府と同じ傾向にある。

イ 「SNS」を介した態様は、オンラインゲームや無料通話・モバイルメッセージアプリでのトラブルが小中学校ともあげられている。また、全体の態様の中で占める割合は、小中学校とも令和元年度よりやや増加している。

３ 「重大事態」について

年間を通して、「重大事態」の認知及び発生はない。

４ 今後の課題について

- (１) いじめは、「すべての児童生徒に起こりうる、全ての児童生徒が加害者にも被害者にもなりうる」ということを踏まえ、児童生徒一人ひとりにとって安心・安全な学校づくりを推進する。
- (２) 認知件数・認知率が減少しているが、いじめ調査に書けない児童生徒がいることを踏まえ調査以外の方法や教職員の日常的な見守り、児童生徒が相談しやすい信頼関係の構築に努める。
- (３) 「学校いじめ防止組織」等の会議の確実な実施と、学校等における「居場所づくり」に向けて、学校経営の見直しや授業改善等の未然防止・早期解決の取組みを推進する。

令和 2 年度「不登校の状況」のまとめ

* 「不登校」・・・「不登校」を理由として 30 日以上欠席

1 小学校の状況について

ア 不登校 14 名

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
人数		1 人		2 人	6 人	5 人

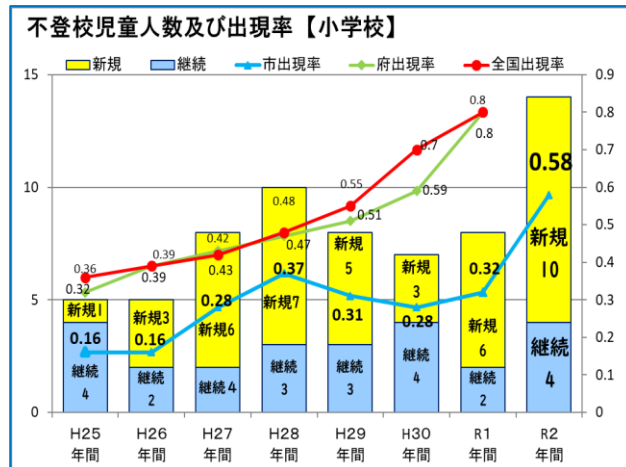
イ 新規不登校 10 名の内訳

経過観察：1 名

新規報告：9 名

ウ 別室登校：全報告中 14 名

別室登校 100 日以上：4 名



2 中学校の状況について

ア 不登校 50 名

	1 年	2 年	3 年
人数	9 人	16 人	25 人

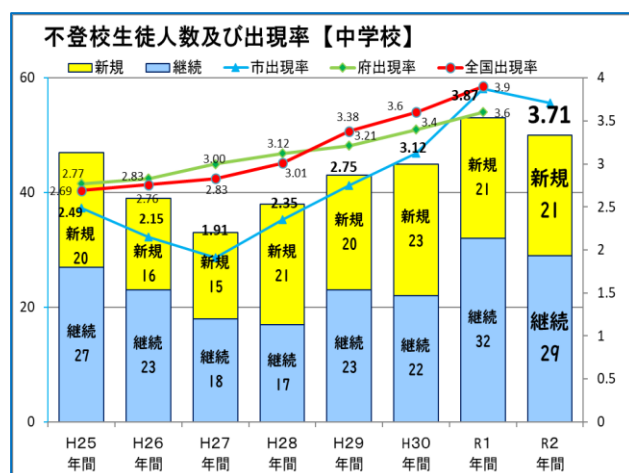
イ 新規不登校 21 名の内訳

経過観察生徒：8 名

新規報告生徒：13 名

ウ 別室登校：全報告中 46 名（全 6 中学校）

別室登校 100 日以上：7 名



3 教育支援センター「麦わら」について

- (1) 申請 4 月 9 名（小学生 1 名・中学生 7 名・卒業生 1 名）
3 月 21 名（小学生 7 名・中学生 13 名・卒業生 1 名）
- (2) 学年・男女別人数(令和 3 年 3 月末現在)

	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	卒業生
人数	3 人	1 人	3 人	3 人	4 人	6 人	1 人

- (3) 不登校ではないが、心の安定を図る未然防止としての通所、保護者のみの相談等活用が多様化している。
- (4) アウトリーチ型支援の増加
訪問支援 4 件・中学校教育相談部会への定期的な参加

4 今後の課題について

- (1) 不登校に至る要因や背景は年々多様化しているとともに、前学年までの累積欠席日数によらず新規不登校に至る可能性がある。そのため、早期に専門家や関係機関と連携を図り、適切な対応ができるよう支援体制の構築を図る。
- (2) 学校は、児童生徒の社会的自立にかかわる教育活動を位置づけ、全ての児童生徒にとって魅力ある学校づくりを目指して、教育活動及び指導方法の工夫改善を図る。